

高校の勉強

2023. 8. 31

高校の国語の教科書を読んだ。おもしろいが、高校生にとっては、むずかしいのではないかと感じた。中学校の教科書との差が激しい。一気に難解になる。これは、国語だけではないだろう。義務教育ではないのだから、当たり前と言えそうなのだが。

お借りした国語の教科書には、最初に『生きもの』として生きる」という中村桂子さんの文章が出てくる。中村さんの文章は、中学校の教科書にも出ていた。読みやすかった。ところが、高校の方はというと、気合を入れて、頭を働かせて読まない、読み進めることができない。これはあくまでも現在の私の場合であって、現役の高校生は、そんなことはないかもしれない。とにかく、同じ筆者の作品でも、中学校と高校とでは、だいぶ違う。中学校の教科書は、舗装道路である。一方、高校の教科書は、田んぼのあぜ道ではない。砂利道でもない。かといって、舗装道路でもない。道を通るのに、エネルギーを要する。

「羅生門」を初めて読んだ高校生は、どのような反応をするのだろうか。何を思うのだろうか。中学生のときの「少年の日の思い出」や「握手」そして「走れメロス」「故郷」と比べると、かなり強烈である。一気に、大人の世界へと引き込まれる。中学校の作品は、何だか穏やかだった。

「水の東西」はまだいい。鈴木孝夫の「ものことば」が問題である。神経を集中させないと、何を言っているのか理解できない。自分が高校生ときには、この鈴木孝夫の文章が好きで、よく読んでいた。自分の衰えを自覚するしかない。

高校の勉強はこわい。数学がわからず苦勞した。物理に至っては、さっぱりわからなかった。自分は、勉強ができない人だということを思い知らされた。ところが、まわりには、数学も物理もできる人が存在している。勉強する気も失せる。好きなはずの世界史や地理もできなくなっていった。当たり前である。勉強というものをしなくなったのだから。

数年前に、山川の世界史の教科書を読んだ。よくわかる。何もむずかしくはない。いったい、自分は高校生のときに何をしていたのかと思う。日本史の教科書も読んだ。全く問題ない。人間というのは、できないと思うと、本当にできなくなるのだということを知った。

一気にジャンプアップする高校の勉強に向けて、今の中学校の教育でいいのだろうかと思うときがある。国語で考える。今の中学生が読んでいる文章は、かなり易しいのではないか。読みやすいのがいいわけでもない。太宰治や夏目漱石、芥川龍之介でも読んでいれば別なのだが。

社会に出て生きていくには、中学校までの学習で十分とは言わないが、間に合うように思う。さほど困らない。だとすれば、高校の勉強は何のためにするのか。その目的を明確にしないと、私のようにになってしまう。高校の勉強は、頭をフル回転させる必要があることは確かである。そこに意味があるのかもしれない。